



Title	内陸アジア言語の研究 XIII 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 1998, 13
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/21977">https://hdl.handle.net/11094/21977</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 『内陸アジア言語の研究』執筆要項

1. 本誌は、中央アジアと中国を中心に、東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる、中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語、及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・宗教典籍など）を、言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する。
2. 原稿は未発表のものに限る。ただし口頭発表したものはこの限りではない。
3. 原稿の長さは自由である。論文の場合、刷り上がり状態で 20 ページ（400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚）を一応の目安とする。ただし、数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する。
4. 原稿は、完全原稿の形で提出されたものを、フロッピーないし電子メールの添付ファイルで受け付ける。組版は Macintosh の Adobe PageMaker-J 6.0 を用いて行なう。
5. 入稿について
  - 1) Macintosh 使用の場合  
特に 30 ページを越える原稿については、経費軽減のため、Adobe PageMaker-J 6.0 にて割付済みの原稿を入稿するのが最も望ましい。内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントや、割付のスタイルを指定したテンプレート・組方規則などは、編集部から配布する。また、PageMaker 以外の Macintosh ワープロソフトを利用する場合は、編集部に連絡されたい。
  - 2) MS-DOS, Windows 使用の場合  
各種ワープロソフトを用いる場合、MS-DOS テキストファイル形式に変換し、フロッピーディスクで入稿するとともに、印字した完成原稿を送付すること。ワープロにない漢字・記号などの部分は、当該箇所を空けて朱筆で指示されたい。旧字体への変更も、必ず提出稿の段階で指示されたい。本文中の註番号は、該当箇所に(1)のように通し番号を挿入する。
  - 3) 以上はあくまでも原則である。不明の点は編集部に問い合わせられたい。
6. 書式として、以下の統一方針を定める。
  - 1) A5 版横組み、奇数頁起こし、本文は 35 字 × 27 行、脚註は 38 字 × 40 行とする。
  - 2) 句読点は「、。」を用い、「、。」は用いない。
  - 3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い、旧字体・旧かなづかいの使用は引用文等で必要な場合のみにとどめる。
7. 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻、表題の欧米語訳、執筆者名のローマ字表記を付記すること。
8. 原稿の締切日は毎年 3 月 31 日とする。
9. 初校は著者校正とし、再校以降は原則として編集委員の責任とする。校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ、原文の増減は認めない。
10. 抜刷は作成しない。各執筆者には本誌 10 部を献呈する。

1998 年 7 月

## 執筆者紹介

松 井 太 (Dai MATSUI)

日本学術振興会特別研究員

大阪大学大学院博士後期課程 東洋史学専攻

Peter ZIEME

Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften 教授

トルコ文献学専攻

堀 直 (Sunao HORI)

甲南大学文学部教授 東洋史学専攻

池 田 巧 (Takumi IKEDA)

立教大学文学部助教授 シナ=チベット言語学専攻

石 見 清 裕 (Kiyohiro IWAMI)

早稲田大学文学部講師 東洋史学専攻

森 安 孝 夫 (Takao MORIYASU)

大阪大学大学院文学研究科教授 東洋史学専攻

百 濟 康 義 (Kōgi KUDARA)

龍谷大学経営学部教授 仏教学専攻

Werner SUNDERMANN

Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften 教授

イラン文献学専攻

吉 田 豊 (Yutaka YOSHIDA)

神戸市外国語大学助教授 イラン言語学専攻

Jens Peter LAUT

Albert-Ludwigs-Universität 教授 トルコ文献学専攻

## 内陸アジア言語の研究 XIII

1998年8月25日 印刷

1998年9月1日 発行

責任編集 森 安 孝 夫 (大阪大学)  
吉 田 豊 (神戸市外国語大学)  
Peter Zieme (Berlin)

発行者 中央ユーラシア学研究会  
〒 560 - 8532 豊中市待兼山町 1 - 5 大阪大学文学部森安研究室内  
e-mail: sial@let.osaka-u.ac.jp  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/lab/sekaisi/toyosi/SIAL-HP.html>  
tel: 06 - 850 - 5103

取扱店 株式会社 朋友書店  
〒 606 - 8790 京都市左京区吉田神楽岡町 8 tel: 075 - 761 - 1285

印刷所 有限会社 中部ワードサービス  
〒 440-0865 豊橋市向山台町 10 - 10 tel: 0532 - 55 - 8503

# STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES

## XIII

D. MATSUI : Uigur Administrative Orders Bearing " <i>Qutluq-seals</i> " .....	1
P. ZIEME : Turkic Fragments in 'Phags-pa Script .....	63
S. HORI : Two Official Documents on Hui-chiang Preserved at Uppsala University .....	71
T. IKEDA : Some Phonological Features of Modern Munya (Minyak) Language .....	83
K. IWAMI & T. MORIYASU : Chinese Epitaph of a Turkish Lady of Ashina Clan from the Tang Period Found in Mongolia .....	93
K. KUDARA & W. SUNDERMANN : A Second Text of the Sogdian <i>Viśeṣacinti-brahma-pariprcchā-sūtra</i> .....	111
T. MORIYASU & Y. YOSHIDA : A Preliminary Report on the Recent Survey of Archaeological Sites and Inscriptions from the Turkic and Uighur Period in Mongolia .....	129
Bibliography of Jens Peter LAUT .....	171

The Society of Central Eurasian Studies

1 9 9 8